

(様式3)

令和2年度 指定管理業務の評価表

1 施設概要

施設名	老人福祉センター	所在地	伊勢市八日市場町13-1 伊勢市福祉健康センター1階
指定管理者名	社会福祉法人 伊勢市社会福祉協議会	指定期間	平成28年4月1日から令和3年3月31日
設置目的	市民の福祉、健康、世代交流・地域交流等の活動の拠点施設として、社会福祉活動の輪を広げるため		
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老人の教養の向上及びレクリエーション等に関すること ・老人の生活及び健康等の相談に関すること ・老人の機能回復訓練実施に関すること ・老人クラブに対する援助等に関すること ・その他老人の福祉増進に必要な事業 		
施設概要	<p>本棟 昭和63年3月完成(開館は昭和63年4月) 敷地面積6,015㎡(駐車場、緑地等含む)、建築面積(延床面積)4617.01㎡(うち本棟4407.58㎡) 本棟 鉄骨鉄筋コンクリート造4階建て 本棟 1階(1718.75㎡) 総合事務室、相談室、ボランティア室、社会適応訓練室、日常生活訓練室、調理実習室、伊勢市ひまわり、和室、個別指導室 等</p>		
職員体制	センター長 1名(兼務) 事務職員 3名		
施設所管課名	高齢・障がい福祉課		

2 収支状況

		(A)	(B)	(C)	(単位:円)	
		平成30年度	令和元年度	令和2年度	比較(C-B)	
事業収支	収入	指定管理料	6,749,000	6,754,000	6,754,000	0
		利用料金	0	0	0	0
		その他	0	0	0	0
		計(a)	6,749,000	6,754,000	6,754,000	0
	支出	人件費	5,695,622	5,149,800	4,687,941	△ 461,859
		管理運営費	1,725,498	1,506,327	1,188,228	△ 318,099
		その他	0	0	0	0
		計(b)	7,421,120	6,656,127	5,876,169	△ 779,958
	収支差引額(a)-(b)		△ 672,120	97,873	877,831	779,958

最新年度(C)と前年度(B)に収支の増減があったものについて記載	支出: 人件費の減 管理運営費 はつらつ教室中止期間に伴う減
----------------------------------	-----------------------------------

3 評価 (別表様式4に基づく総合評価)

指定管理者	市
<p>施設の設置目的達成のために努力した。老人福祉センターの利用者は前年度比較で、12,212人減少した。はつらつ教室は、新型コロナウイルス感染症対策として、令和2年度4月～5月まで全ての教室を中止、6月も一部の教室を中止した。7月から全ての教室を開催した。利用者は、2,009人の減少となった。</p> <p>はつらつ教室に関しては、今後もアンケートや聞き取り調査を行い、ニーズに沿った教室の実施や、人気のある教室の継続開催を行っていききたい。また、新型コロナウイルス感染症の状況を注視しながら、利用者が安心して利用できるよう配慮していききたい。あわせて、新たな利用者が増えるよう努めていききたい。</p>	<p>施設の設置目的を理解し、管理運営については適正に行われていた。</p> <p>老人福祉センターの利用者の減少、はつらつ教室の利用者が、大きく減少している。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止措置として、4、5月のはつらつ教室が中止になり、また、6月以降も人数を減らしての教室開催となり、利用者数全体への影響がみられるが、今後もアンケート等を行い、ニーズに即した事業展開を心がけ、高齢者の社会参加の促進、福祉増進を期待すると共に、利用者が安心して利用できるよう配慮に努めることに期待する。</p>

(様式4)

指定管理業務の項目別評価表

施設名

老人福祉センター

評価項目		評価				
		指定管理者		市		
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由	
施設設置目的の達成	①施設の目的や基本方針の理解	施設の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針を理解していたか。	A	施設の目的や基本方針を理解し、管理運営に努めた。	A	施設の設置目的や基本方針を理解し管理運営に努めたと思われる。
	②施設設置目的の達成度	施設の管理運営を通して、施設の設置目的は達成されたか。	A	高齢者を対象とした教室を開催し、施設の目的達成に努めた。	A	施設の利用状況、管理状況から施設の設置目的は達成できたと思われる。
	③利用者数	利用者数は当初の目標を達成したか。	B	はつらつ教室の年間利用者数が令和元年度の5,343名から、令和2年度は3,334名と2,009名減となった。(新型コロナウイルス感染症対策として、定員数を減らした。)	A	前年度より利用者数が減少しているが、新型コロナウイルス感染拡大防止による教室の開催中止によるものであり、全体的には各種教室を企画し目標達成に努めたと思われる。
	④運営状況	施設の供用日数・供用時間は守られたか。また、適正な施設の運営が行われたか。	A	施設の併用日数・併用時間を守り適切な施設運営に努めた。	A	事業計画書に計画された運営が行われ、適正な施設運営と思われる。
	⑤職員の配置状況・勤務実績	職員の配置状況・勤務実績は適正であったか。また、業務執行体制(作業責任者・業務担当者)は明確になっていたか。	A	職員の配置・勤務を適正に行い、業務執行体制についても、作業責任者、業務担当者等の役割を設定し業務を執行した。	A	職員の配置状況・勤務実績は適正であったと思われる。
	⑥意思疎通	管理運営業務全般について、市と指定管理者の責任者の間で十分な連絡調整がなされていたか。	A	管理運営業務全般において、伊勢市と協議や連絡調整を行いながら管理運営をした。	A	運営業務全般において、伊勢市と協議や連絡調整を行いながら業務を遂行していた。
	⑦各種管理記録等の整備・保管	各種業務計画書、点検記録、整備・修繕・事故・故障等の履歴等の各種管理記録等が整備・保管されていたか。	A	点検記録、修繕記録等、各種管理記録の整備保管を行った。	A	各種の記録については、適正に整備・保管がなされており、月報・年報にて報告がされていた。
	⑧地域の振興	地域や地域住民との交流・連携に関する取り組みを実施し、地域の振興が図れていたか。	B	地域住民との交流を図る為福祉健康センターフェスティバルを実施しようとしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止とした。	A	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、実施中止とした企画もあるが、イベント開催及び開催支援を行い、地域交流を積極的に実施していた。
	⑨使用許可等	使用許可等申請が適正に行なわれていたか。	A	使用申請の提出を施し、適正に受付を行い使用の許可をした。	A	使用許可等申請の取扱いは適正に行なわれていた。
	⑩利用料金等の徴収状況	徴収、減免、還付等は帳簿等が作成され、適正に行なわれていたか。	A	利用料の帳簿等を作成し、徴収、還付等を適正に行った。	A	帳簿は適正に作成されていた。
	⑪個人情報	個人情報の取扱いがきちんとなされていたか。	A	棚、引出し等を施錠し、個人情報の保管に留意した。	A	個人情報漏洩などの問題も発生しておらず、適切に行われていたと思われる。
⑫法令遵守	関係法令を遵守していたか。	A	法令を理解し、遵守した。	A	法令違反は見受けられなかった。	

指定管理業務の項目別評価表

施設名

老人福祉センター

評価項目		評価			
		指定管理者		市	
業務運営項目	評価の基準	判定	評価理由	判定	評価理由
サービスの質の向上	①施設利用状況及び利用者数増加への取り組み	A	はつらつ教室としての工夫を心掛け、福祉健康センターフェスティバルと共催で教室の作品展を開催することで利用者の増加に努めようとしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、作品展は中止となった。	A	新たな取り組みを取り入れるなど積極的に事業を行っていた。
	②利用者の平等な利用	A	ミーティング等を行い、職員間での情報を共有し、利用者への平等なサービス提供に取り組んだ。	A	サービス水準については、期待される水準にあった。
	③適切な情報提供	A	社協だよりに、各教室の募集記事の掲載をした。福祉健康センターだよりを年6回発行し、公共機関等への配布を行ったり、ホームページ等での情報提供を行った。	A	適切な利用情報の提供を行っていたと思われる。
	④非常時・緊急時の対応	A	緊急時のマニュアルを作成、年2回避難訓練を実施、また職員全員が、AEDの講習を受講し、非常時・緊急時の対応に備えた。	A	緊急時を想定したマニュアル整備、避難訓練を実施するなど、適切に行われていた。
	⑤苦情解決体制及び対応	A	利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたか。また、事故、苦情に対する対応は適切であったか。	A	利用者からの意見・苦情等を受けて迅速かつ適切に処理できる体制が整っていたと思われる。
	⑥自主事業	A	アンケートを行い、利用者からの要望を聞き取り、次年度に開催する教室を決定した。年度末に教室の作品展を開催する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。	A	利用者ニーズに即した自主事業が行われていた。
	⑦事業の評価	A	事業実施後に反省会を実施し、問題点を話し合い、次年度につなげる努力をした。	A	次年度に向けての見直し等は行っているが、それをどこまで次年度に反映させるかが課題と思われる。
施設・設備等の維持管理	①建物・設備の保守点検	A	設備の定期点検、建物の安全点検を行った。また植栽管理し、安全の確保、美観の保持を心かけた。	A	毎月安全点検等適切に行い、月報にて報告されていた。
	②備品等の管理	A	定期的な点検を行い、丁寧に扱うことを心掛け、保守管理を行った。	A	破損や紛失がなく、適正に管理されていた。
	③修繕業務	A	点検によって異常が認められた場合は、速やかに修繕・交換・整備・調整等の適切な処置を講じ、その内容を記録されていたか。	A	毎月点検を行い、月報により適切に報告されていた。
	④清掃業務	A	予定通り点検、測定、清掃を行った。	A	清掃は適切に行われていた。
	⑤防犯体制	A	鍵は所定の場所に保管し、貸出し簿の記入を行った。最終退館者が退館簿に記入することを徹底した。夜間は業者に委託し、防犯対策をした。	A	防犯に関する問題はなく、鍵の管理及び防犯に対する対策、対応は適切であった。